

第1回三次市総合計画審議会 会議録

日 時	令和5年7月21日（金） 15時～17時10分
場 所	三次市役所本館6階 607・608・609会議室
議 事	(1) 審議会会長の選任について (2) 第3次三次市総合計画の策定について
委員等	<p><出席委員></p> <p>有重 由紀子／三次市PTA連合会 代表 池上 裕章／三次市住民自治組織連合会 会長 岩本 智建／ひろしま農業協同組合三次地域本部常務理事 浦田 愛／県北地域環境活動推進協議会 特定非営利活動法人ほしはら山のがっこう 副理事長 岡田 美津子／三次市女性連合会 会長 落合 裕子／三次市社会福祉協議会 監事 【職務代理者】佐藤 明寛／三次商工会議所 会頭 中井 沙耶香／三次市保育所保護者会連合会 副会長 西田井 恭子／三次市防災士ネットワーク 副会長 林 昭三／三次広域商工会 会長 前田 茂／三次市文化連盟 会長 財団法人三次市教育振興会 会長 政森 進／一般社団法人三次観光推進機構 理事長 森信 志津夫／三次市身体障害者協会 副会長 北木 清治／国土交通省中国地方整備局三次河川国道事務所 所長 河野 由美子／広島県北部厚生環境事務所・保健所 保健課 課長 【会長】伊藤 敏安／広島修道大学 国際コミュニティ学部 教授 田中 貴宏／広島大学大学院先進理工系科学研究科 教授 神岡 百合美／EGG(草の根国際交流会) 代表 住本 惟光／三次市官民共創コンソーシアム DXコーディネーター 水田 史人／三次金融協議会 幹事 山口 大輔／連合広島備北地域協議会 副議長 榎原 祐美／Lupine (カッペマ編集事務所) 代表・アシスタlab. 会員 前田 奈美／備北ひばり法律事務所 弁護士 道原 愛二郎／まちづくりワークショップ会長 (ひとづくり) 安信 祐治／まちづくりワークショップ会長 (くらしづくり) 福永 丈也／まちづくりワークショップ会長 (環境づくり) 藤井 皇治郎／まちづくりワークショップ副会長 (しくみづくり)</p> <p><欠席委員></p> <p>長尾 香織／NPO法人みわスポーツクラブ 理事 西本 寮子／県立広島大学地域創生学部地域創生学科 教授 橋本 葵／まちづくりワークショップ会長 (仕事づくり)</p> <p><事務局></p> <p>福岡 誠志／三次市 市長 笹岡 潔史／三次市経営企画部 部長 渡部 真二／三次市経営企画部企画調整課 課長 加藤 泰／三次市経営企画部企画調整課 係長 森岡 弘樹／三次市経営企画部企画調整課 豊永 美由紀／ 同 上</p>

〈公開用〉

(事務局)

開会に先立ち、ひと言お願いをさせていただきます。本日、報道関係の方などから本審議会を傍聴したいとの依頼がありますので、開会に先立ち、委員の皆様にお諮りいたします。

本審議会は、会議の公開について特段の定めはございませんが、傍聴されることについて、ご異議はありませんでしょうか。

(各委員了承)

ご異議なしとのことですので、本審議会を傍聴されることについて、ご了解をいただいたものとしします。また、本審議会のご意見を記録するため、音声の録音をさせていただくこと、本審議会のご意見や写真をホームページ等で公開することをご了解いただきたいと思います。

1 開会

(事務局)

ただいまから、第1回三次市総合計画審議会を開催いたします。

本日は、大変暑い中、またご多忙のところご出席をいただきまして誠にありがとうございます。

会長が決定するまでの間、本日の会議の進行を務めさせていただきます。私、企画調整課長の渡部です。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、開会にあたりまして、三次市長 福岡誠志 がご挨拶を申し上げます。

2 あいさつ

(市長)

〈あいさつ(略)〉

(事務局)

本来でしたらここで、市長から委員の皆様を直接任命させていただくのが本意ではございますが、時間の都合により、誠に失礼ではございますが、お席に配付させていただき、交付に代えさせていただきたいと存じますので、ご了承いただきますようよろしくお願いいたします。なお、本日は、三次市総合計画審議会委員の任命書並びに三次市まち・ひと・しごと創生市民会議の委嘱状をお配りしています。現在、本市では、総合計画とは別で、三次市まち・ひと・しごと創生総合戦略を策定しておりますが、新しい総合計画を策定するにあたり、現在のまち・ひと・しごと創生総合戦略と一体化した計画を策定するよう考えております。このまち・ひと・しごと創生総合戦略を策定するにあたりましては、多様な見地からご意見を頂く機会として、三次市まち・ひと・しごと創生市民会議を設置しており、総合計画の策定と合わせて委嘱させていただきたいと思っております。期間は、本日、令和5年7月21日から令和7年7月20日までの2年間でございます。何卒よろしくお願いいたします。

それでは、審議会の委員にご就任いただきました皆様をご紹介いたします。本日お配りしております資料9をご覧ください。先に、会場にご出席の皆様を各種団体推薦や行政機関などの枠ごとに、氏名の五十音順にご紹介いたします。紹介させていただいた皆様におかれましては、その場で簡単に一言自己紹介いただければと思います。

〈各委員紹介(略)〉

続きまして、事務局の紹介をします。

〈事務局紹介(略)〉

3 議事

(1) 審議会会長の選任について

《公開用》

(事務局)

これより議事に入りたいと思いますが、その前に、本日の配付資料の確認をさせていただきます。

事前にお送りした資料が資料1から資料8まで、本日お配りした資料は、資料9～資料13、まち・ゆめハンドブック、第2期三次市まち・ひと・しごと創生総合戦略、三次市人口ビジョンです。不足等ございましたらお申し出ください。また、ただいまの出席委員は27人です。定足数に達していますので、これより議事に入らせていただきます。

まず、議事の1番目、「審議会会長の選任について」お諮りします。

三次市総合計画審議会条例第4条第1項の規定により、当審議会の会長は、互選により定めることになっております。また、審議会運営規則の規定により、投票または指名推薦の方法により選出することができます。

伊藤敏安委員を推薦したい旨のご提案がありました。いかがでしょうか。

(各委員了承)

異議なしということですので、審議会運営規則第2条第2項の規定の指名推薦により、伊藤委員を会長に決定させていただきます。

それではここで、三次市長から本審議会に対しまして、審議事案を諮問させていただきます。審議会を代表して伊藤会長へ、福岡市長から諮問させていただきます。

(市長)

第3次三次市総合計画の策定にあたり、三次市総合計画審議会条例第2条の規定に基づき、貴会の意見を求めます。

<諮問>

(事務局)

市長は、他の用務のため退席させていただきます。

これより、審議会運営規則第6条の規定により、会長に審議会の議長をお願いしたいと思います。伊藤会長、よろしくお願いいたします。

(会長)

どうぞよろしくお願いいたします。事前にお送りいただいた資料を見ておりましたら、市民アンケートと中学高校生に対するアンケートの結果が出ていました。その中で注目すべきは、中高生のアンケート結果です。

三次に愛着を持っているという回答の割合が、これまで3回のアンケートで、少しずつ上がってきています。しかも、一般市民よりも中高生の方が、三次市に対する愛着度の割合がより高いということは、非常に重要な兆候だと思います。ただ問題は、ずっと住み続けたいという割合が少しずつ低下していることで、愛着とは逆の方向になっています。

愛着の割合が上がっているのは、教育の成果でもあるでしょうし、また、いろいろな地域の取組が反映されているものと思います。一方で、住み続けたいという割合が少し伸び悩んでおりますので、今後は、愛着度をいかに活かしていくかですが、総合計画の策定に向けた取組が、そういったきっかけ、あるいは、推進力になればと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、審議に入る前に、審議会条例第4条第3項に規定されております、会長に事故があるとき又は会長が欠けたときに、会長の職務を代理する委員として、佐藤明寛委員を指名させていただきます。

(各委員了承)

《公開用》

それからもう1点、審議会運営規則第10条第3項の規定により、本日の会議録署名委員を、池上裕章委員、榎原祐美委員にお願いしたいと思っております。どうぞよろしくお願ひいたします。

(各委員了承)

(2) 第3次三次市総合計画の策定について

(会長)

それでは、議事の2番目、「第3次三次市総合計画の策定について」です。

事務局から説明をお願いします

(事務局)

<事務局説明(略)>

(会長)

ありがとうございます。残りの時間、2つに分けて進めたいと思っております。1つ目は、先程の資料説明についてです。三次市総合計画と地方創生総合戦略の関係、アンケート結果、さらには市内の検証結果と多岐にわたっておりますが、その中で特に気になったこと、質問、聞き逃したことや確認したいことがあれば、挙手いただければと思っております。

2つ目につきまして、今回の総合計画の目標期間は10年後です。概ね10年後をイメージしながら、これまでの経過を踏まえ、10年後の三次はどういったイメージで、そのイメージを達成するためには、どういった方策を重視すべきなのか、自由なご意見をお聞かせいただきたいと思っております。

それでは1つ目から、今の資料説明につきまして、気になったこと、聞き逃したことがございましたら、手を挙げていただければと思っております。

(委員)

資料2-1に、中項目とそれに対する評価が書かれていますのですが、中項目に書かれている記述と、評価をされている○や△の評価が少し違うのではないかという違和感を覚えました。また、全体を見ていくと、分野によって、評価に差異があるような感じがしましたので、どういう風に評価をされたのかを少しお伺いできればと思っております。取組経過を見ると、係長クラスのワーキンググループ、課長クラスの幹事会での検証作業になっていますが、分野間の調整などをどのようにされたのかということをお伺いしたいと思っております。

(事務局)

ご質問いただいた資料2-1の検証結果ですが、第2次三次市総合計画の大きな反省として、各項目において、数値目標やめざすべき状態といったものを定めていないということがあり、何をもって項目を達成したか、或いは達成できなかったかというところを、評価判定することが難しい計画のつくりになっていました。したがって、○や△などの評価は、取り組んだ担当部署による自己評価ということになっております。

おっしゃるように、評価内容については、係長級職員のワーキンググループ、課長級職員の幹事会、部長級職員の策定委員会で確認し、最後に企画調整課で全体を調整させていただいておりますが、何かの指標に照らし合わせて、○や△と評価していない点については、違和感があるかと思っております。次の計画については、そのあたりの反省を活かして、めざすべき状態や目標を掲げ、検証する際に数値をもとに評価できるようにしていきたいと考えております。

《公開用》

(会長)

よろしいでしょうか。他にどなたか、質問等ありましたらお願いします。

(委員)

アンケート調査について少しお伺いしたいと思います。アンケート調査の中で、三次に対する愛着について聞かれています。先程の会長のお話を伺っていても、愛着度は1つのポイントかなと思っているのですが、愛着とお住まいの地区や、三次に対するイメージの回答などとのクロス集計はされているのでしょうか。

(事務局)

アンケート調査のクロス集計について、地域別、年代別、性別でクロス集計をさせていただいています。

市民アンケート調査では、16ページに中学校区別に愛着度を掲載しておりますので、ご参照いただければと思います。

中高生については、母数が少ない学校もありますので、報告書には記載はしていませんが、資料として整理しております。

(委員)

いくつかクロス集計があることは理解しているのですが、もう少し要因の分析ができると良いと思っています。例えば、三次に対するイメージのどこの分野の高い人が、愛着が大きくなるのかなどを分析すれば、愛着度を上げていくための打ち手が見えてくるのかなと思いました。一般市民と中高生、両方について、もう少し突っ込んだ要因分析をしていただけるといいのかなと思いました。

(会長)

ありがとうございます。1つの例として、**資料4**の17ページ、愛着を感じているかどうか、まちづくりへの参加意向別の結果になります。これを見ると、参加している人ほど、明らかに愛着が高いということで、こういったことが重要な分析になろうかと思います。

(委員)

はい。それが例えば、地区によって違っていたり、分野ごとのまちのイメージに対して違っていたりといったことがあるかなと思います。そのあたりをもう少し分析していただくと、方策が見えてくるのかなと思いました。

(会長)

ありがとうございます。また、事務局で検討していただければと思います。他にどなたかいらっしゃいますか。ないようでしたら、各委員から、10年後を展望して、こういった計画づくりを進めて欲しいというようなご提案、あるいは、気付きでも結構ですので、簡単にご発言をお願いします。

(委員)

結婚などで市外に出られ、三次に帰って来られない方が多いと聞きますので、出られた方が、どういうことがネックになって帰って来られないのか、そういう方のご意見が聞ける機会があると良いと思いました。

《公開用》

(委員)

私は30年ぐらい単身赴任をしていて、自分の故郷に帰ってきたのですが、人が流動することは仕方がないことと思います。でも、できれば地元で働ける、出て行っても、第2の人生は故郷で過ごせるといった、コミュニティを作っていければ良いのではないかと思います。

(委員)

資料12の1ページに、人口の動向ということで、全国のことざっくりと書いてあります。高齢化率が38%になるというのは全国の話かと思うのですが、三次市の場合はどのあたりに落ち着くのだろうかと思っています。現在の三次市の高齢化率が28.6%となると、たぶん10年後には5割を超えてくる地域も出てくるのではないかと思います。農業をする人も、ご存じのように高齢化しておりますので、三次市としても、そういったところを、もう少し前向きに考えていただければと思います。仕事に関しても、人口構成で決まってくるかと思うので、将来人口に関連する資料などがあれば良いのではないかと思います。

(会長)

人口見直しにつきましては、総合計画作りの途中で提示されると思いますので、その時にまとめて議論していただければと思います。

(委員)

私は川西というところに住んでいるのですが、ここに来る前に空き家の見学がありました。その方に「どうして三次市に住みたいと思ったのですか」とお尋ねすると、「以前、夫が三次市に住んでいたことがある。その時に住みやすかったから三次市に住みたいと思った。」と言われて、その住みやすさは何だったのかとお聞きすると、「自然が豊かなところで穏やかに過ごせる」と言われました。30代前半の方でしたが、様々な人とお話しする中で、そのような若い方は、これらどう暮らしたいかと考えた時、穏やかに豊かな自然に囲まれた場所で過ごしたいと考えられているのかなと思いました。資料4の79ページの中高生アンケートで、三次市に住みたい理由について、「自然がたくさんあるから」「都会よりも田舎が好きだから」という回答が、前回の調査時よりも増えていて、今回の調査では「自然がたくさんあるから」を選んだ人が半数を超えている結果を見た時に、三次市は今何を残していかなくてはならないのかということ、総合計画の中にしっかりと書き込んでおきたいと思いました。見学会に来られた方々に、「もしも三次市に住むとしたら、不安なことは何ですか。」とお尋ねしたところ、「この地域で子育てがしたいけど、この地域の小学校がずっと存続するかどうか不安です。」と言われていました。ここで子育てをしたい方や都会よりも田舎が好きだという方にどんどん来ていただけるよう、何を残していかなければならないかということ、総合計画に書き込んでいけたらと思いました。

(委員)

10年後を見据えてということ、今はまだ漠然とした意見しか言うことができませんが、先程「考慮すべき社会経済潮流等の変化」の説明がありました。これは本当に重要なことだと思います。これをもとに、しっかりと10年後の三次市のことを考えていかなくてはならないと思います。庁内の検証結果で、〇と評価されたものについては、もっと伸ばしていけるような計画を立てないといけないと思います。農業や商工業を見ますと、結構厳しい評価のものがあると思いますが、これからは、人口も少なくなつて、経済状況も厳しくなっていくということも踏まえて、しっかりと計画を立てていきたいと思っています。また、「つながる」ということも書かれてあったかと思うのですが、これは本当にこれから重要なことだと思っています。組織や地域を見

《公開用》

ても、高齢になるとつながりが少なくなっている、離れていってしまうという状況があります。この点も、大きなポイントとして、考えていけたらと思っております。

(委員)

10年後ということで、今から人口が減っても、ここで長く住み続けたいと思うには、ハード面の整備は差し置いて、地域の皆さんのコミュニティづくりが一番大切になってくるのではないかと思います。様々な施設ができて、人と人とのつながりがない限り機能しないことになり、隣近所から始まって、サークル同士、様々な機関などが、行政や色々な団体に手を加えて作ってもらうのではなく、自然なつながりができるようにすれば、いろいろなことが機能して、ここに住みたいという思いにつながるのではないかと思います。

(委員)

35年間、三次市から1回も出たことがなくて、すごく住みやすいまちだと思います。私は、子どもが4人いるのですが、1人発達障害があります。保育所までは、いろいろなところに相談できて、すごく手厚く、子育てしやすいなと思っていたのですが、小学校に入ってから、相談するところがほとんどなくなってしまって、今は教育委員会しか相談できる場所がなく、他にどこに相談したらよいのかと思うことがあります。三次は住みやすいまちではあるけど、障害を持った子の子育てをするのは、ちょっとしんどいなと思う部分があります。就職もなかなかうまくいかないことがあって、そういう面でも、もっと子育てしやすい環境があれば、もっと住みやすいまちになると思います。

(委員)

防災の観点からお話しさせていただきます。10年後になると、現在よりもかなり大雨や台風などの災害は増えてくるのではないかと考えています。資料を見ましても、「防災に強いまちづくり」という言葉が何回も出てきますが、それは具体的にどういうものを指すのか、ハードの面では川の浚渫や遊水地を作るといったことが進んでいると思います。ソフト面は、**資料2-2**を見ますと、防災訓練等の参加者の人数で評価をされていますが、私が住んでいる甲奴町で言わせていただきますと、参加はしているが、各家庭1人ずつ参加すればいいというような雰囲気があります。つまり、数字ありきで見るのではなくて、中身がどうなっているのかを、考えていかなければいけないのではないかなと思います。特に、防災訓練の時に考えなくてはならないのは、そこに来ることができない人、避難したくてもできない、防災訓練に参加することができない方の命をどう救っていくのかです。高齢化が進むにつれて、個別避難計画だけでは動けない方々をどうしていくかという問題が出てくるのではないかと感じました。

もう一点、私は11年前にIターンで三次に引っ越してきました。私の子どもも発達障害があり、三次に来た時にどこにも相談ができませんでした。中学校の3年間は、ほぼ学校に通えませんでした。ということが起こり、なぜそういうことになったのかという報告が全くないままの3年間でした。ICTが導入されて、自宅で何とか学習して、今は辛うじて元気に高校に通っているという状態です。学校に来られない子どもを今後どうするのか、無理やり学校に通わせるのではなく、ICTの活用をもっと進めるなら進めるで、どうフォローし、出席扱いできるかどうかも課題かと思えます。家庭で学習して、定期テストで点を取っても、教室にいないと、成績表が1になるというのが現状です。この現状をどのように変えていくか考えていく必要があるのではないかと感じています。

(委員)

私の事業所は市街地にあり、そこに旧町村から通っています。私が住んでいる地域では、10年前はそんなに不便も感じないし、少子高齢化を感じることもそれほどなかったのですが、10年経った今は便利の悪かったところも、便利の良いところも寂れてきています。1つには家庭の事情があると思います。娘さんが全員嫁がれて町から出られ、残っている男性は適齢期になって結婚したくてもできないといった現状があります。10年後は、おそらく集落を維持できないところが出てくるのではないかと思います。昔と違って、今は子どもを家に縛りつけず、後継ぎができないということが人口減少につながり、集落が維持できなくなっていくのではないかと思います。

もう1つは、校区を越えて自由に学校に通える環境があることで、親御さんが旧市内に勤めておられる場合、旧市内の学校に通われてお勤めの帰りに子どもを迎えに行き連れて帰られる家庭が多くなったようです。旧町村の地域の学校は少子になり、複式学級になっている現状があります。中高一貫教育校に優秀な生徒が集まるのは良いのですが、田舎の場合、もともと少ない人数がさらに少なくなっていく、中学校そのものが維持できなくなってしまう。そういうことについても考えていただきたいと思います。

(委員)

これまでも、三次市の人口5万人を維持するためにはどうしたらいいかという話が出たと思いますが、人口減少に歯止めをかけることができないまま進んできています。大都市は、むしろ人口が増えているという現状もあります。どういうことを努力して、どういうことを改善していくのかということもありますが、やはり人間は、心の持ちようが大変作用するわけで、頑張らなくてはならないという意識が持てるような施策や経済環境が整ってくれば、状況も変わってくるかと思えます。企業誘致などで働く場所を確保することで、経済的な余裕ができ、人口がある程度増えてくれば、中学校や高校で充実した教育を受けることができる、やりがいのある地域・生活を取り戻していけると思えますので、そのあたりを、市行政または経済界がどう取り組めるのかが大切かと思えます。そのためには、住民の意識、住んでいる人の決断・やる気が、ある程度湧き上がってこない、改革にはつながってこない、どのように改革していくかというところの議論を、こういう場ですべきだと思います。現状に触れることばかりがいいとは思いませんし、どうするか次のステップがどこまで踏めるかということが、この会議の1つの意味ではないかと思えます。

(委員)

資料を拝見し、特に印象的なところをまずは述べさせていただきます。教育について、三次市には中高一貫教育校がありますが、あまり受験に追われることなく、時間的な余裕を持って勉強ができる体制も大事なのではないかと思います。少子化により、子どもの人数が減ってきている中、地域のつながりや地域をあげてみんなで子育てをするということが大事になるかと思えます。

スポーツ・文化について、世界女子野球の大会が9月に三次市で開催されるなど、三次市が女子スポーツで大変注目を浴びています。海外からも来ていただけるので、学校でも総合的な学習の時間などを使って交流を図ることが、国際交流にもつながるし、国際的な人材を育てることもつながると思えます。

保健医療については、やはり早期発見・早期治療が大事かと思えます。私も8年前に癌になった経験がありますが、早期発見されれば、直すことができることもありますので、早期発見・早期治療が大変大事だと思います。医療体制については、三次市は子どもの24時間診療が可能ですが、なかには、広島市内まで行かないと子どもの夜間診療を受けられない市もあります。三次市の充実した医療体制については、さらなる充実をめざす必要があると思えます。

農業ですが、少子高齢化や鳥獣被害で耕作放棄地が増えて、それが太陽光発電に移行しています。先日も、避難指示が出た地域がありましたが、太陽光発電パネルが全面に設置されたため、一気に水が出て、想定もしない水の流れができたことが原因です。水田の確保は、ダムの働きをするというのを忘れてはならないと思います。また、楽しい農業ということで、私たちは、観光振興の取組の1つとして、都会の方が三次市に来て、田植えや酒造りを体験できる、三和町の酒造り体験ツアーを実施するようにしています。また、昨年4月に市内の観光組織が一本化しましたが、観光資源を活かした集客ということで、観光消費額を上げて、皆さんにしっかり稼いいただくこと、宿泊数を増やすことを目標に取り組んでいます。総観光消費額は、令和2年は39億円でしたが、令和4年は50億円の目標に対し、62億7,700万円を達成し、宿泊者数については、令和2年は12万8,000人で、令和4年の15万人の目標に対し、15万5,000人を達成したところです。もう1つ、資料3の6ページの10番目に「歴史・伝統・文化の継承と発展」という項目がありますが、三次市には二代目の辻村寿三郎さんをはじめ、鶉飼や古墳、もののけミュージアムなどがあり、本当に財産の宝庫です。これを活かして魅力を発信していきたいと思っています。

(委員)

身体障害者を取り巻く状況は、近年急速に制度が整えられ、2年前には東京パラリンピックなども開催されるなど、障害に対する理解もかなり急激に進んできたと感じます。私自身、視覚障害ですが、白杖を持って歩いていると、本当にいろいろな配慮をしていただけてることが多く、とてもありがたいなと思っています。資料にもありますが、「誰一人取り残さない」まちづくりは、とても大事なことで、これをさらに進めていっていただきたいと思っています。一人も取り残さないまちづくりを掲げるといことは、逆に言うと、これまでの長い歴史の中で、少数者を取り残してきたまちづくりをしてきたという歴史が、三次市に限らず日本全国にあります。そういったことを振り返って反省し、一人も取り残さないまちづくりを、これからさらに進めていっていただきたいと思っています。共生社会の実現を掲げ、やさしい声をかけてもらうことも増えてきましたし、障害に対する理解を呼びかけることも大変やりやすくなってきている一方で、ハード面では、まだまだ課題がたくさんあります。障害がある人たちが、本当に何の障害も壁もなく地域活動に参加できるまちづくりを、これからも進めていってほしいと思います。

(委員)

検証結果の中に、「防災・安全」の項目がありました。評価は○ということで、これまでも一生懸命取り組んでいただいていると思います。皆さんもご存知かもしれませんが、昭和47年、中国管内で直轄堤防が決壊したのは三次市が初めてです。そういう歴史経験がある河川が三次市にはあります。三次市との協働による流域治水ということで、全国2例目の指定を受けているところで、ハード面は、行政でしっかりと連携をしながら整備をしていきたいのですが、ソフト的なものについては、あらゆる方の取組が重要です。家であれば雨水樹、農業であれば田んぼダム、簡単なことと言いますと、雨が降っている時は泥の水を流さないなど、様々なソフト面での取組を、計画にも入れていただければと思います。また、水防法に基づく逃げ遅れゼロの実現のための施策について、共助という意味でも、声を掛け合いながら、コミュニティで避難するというのも、計画に入れていただければと思います。

(委員)

今後、人口減少や高齢化が、予想している以上に早いスピードで進んでいくのではと様々な場面で聞きます。したがって、今後の自分がどうなるかということも踏まえて、やはり生きがいを持って健康に暮らせるようにという視点が大切かと思っています。今回、新型コロナウイルス感染症

《公開用》

の流行という大変なことが起きて、心身ともに不安、健康ではない状況がありましたが、その不安を乗り越えるためにも、皆さんからお話があったように、顔が見える隣近所、分かり合える仲間を大事にしていきたいと思います。

(委員)

4点について、簡単にお話します。まず1つ目、愛着の話なのですが、研究的に言うと、愛着が形成される要因としては、人とのつながりがあると一般的には言われています。人とのつながり、特に若い人が地域の皆さんとつながる場をどうやって作っていくかということが、ポイントなのかなと思いました。

2つ目に、資料を拝見していると、「賑わい」という言葉がたくさん出てきたように思いました。つながりをどう作るかということにもつながっていくかと思うのですが、コミュニケーションの場づくり・居場所づくりなど、そういうところに賑わいをどう作っていくかがポイントなのかなと思いました。

3点目が、資料12で、脱炭素の話があったかと思っています。これは地球温暖化に対する対策の意味だと思いますが、一方で、地球温暖化の影響がどんどん出ているという状況なので、気候変動に対する適応という視点が必要なのかなと思います。流域治水はもちろん、暑さ対策なども必要という気がします。

最後ですが、デジタル化が進む中で、新しい働き方が注目されているという話があったかと思うのですが、それを真剣に作っていく1つのモデルに三次市はなれるのではないかなと考えています。

(委員)

私は高校まで三次市にいて、それから大学等で17年間市外にいました。いろいろなボランティア活動を他のまちで始めていたところだったのですが、どうせするなら、親のいる故郷でした方が良いのではないかという思いもあって、三次に帰ってきました。三次に帰ってきて32年経ちますが、国際交流活動を32年、その他の活動を20年・30年続ける中で、三次市の魅力はコミュニケーションや助け合い、そういったところからくるのではないかと思います。コロナ禍の影響もあり、10年経った時は、子どもの数が少ない、若者がいない状況になると思います。三次市だけの問題ではなくて、全国的にそうなのですが、若い働き手がいなくなります。今は低賃金だからということで、海外からの実習生などを呼んでいるのですが、三次市も必ずそうなります。現に今年だけでも、ベトナム、マレーシア、インドネシアから三次市に働きに来ることが決まっています。大きな三次市の課題になると思うのですが、外国の方が働きやすい三次、それが高齢者や障害を持った方の暮らしやすさにもつながってくると思いますので、どういったまちが暮らしやすいかということも考えていけたらと思います。

(委員)

デジタルの観点から、10年後に向けて何が重要かということを考えました。まず、10年というスパンを考えた時に、今のデジタル分野の技術は、確実に更新されていくことが考えられます。したがって、1つは、今の技術に捉われることなく、その時々で、その時ある技術の中から、取り込んでいけるような体制や組織を作っていくことが、重要になってくると思っています。私の立場からは、そういう観点から、10年の中で一体感のあるまちづくりを考えていけたと思います。

(委員)

私はこの6月23日にこちらに着任したばかりで、1ヶ月も経っておりません。三次市の状況に精通しているとはとても言えないのですが、その中でも感じたことを、お話をさせていただきたいと思います。1つ目は、三次市が中国地方のど真ん中であるということから、人口集積地への物理的な距離があります。ここを補っていくためには、DXやSXは非常に大切なのではないかと思います。こういったことに積極的に取り組んでいくことが、経済だけではなく、子育てや住みやすいまちづくりなどのいろいろな分野に関連し、大切になってくるのではないかと思います。

もう1つ、自然が豊かだということが、いろいろなところで出てきたと思いますが、やはり自然が豊かなのは事実だと思います。そこを活かして、バイオマスの関係、カーボンニュートラルなどの分野へ足を伸ばしていく、考えを巡らせていくことも、非常に大切なのではないかなと感じています。

(委員)

私の所属する労働組合は、昔は100名ぐらいの組合員がいたのですが、今は53名ぐらいで、どんどん人が少なくなっている状況です。これからも、効率化施策により、人が減る予定になっています。私は、住み続けるためには働くことが重要だと思っていますので、魅力的な企業の誘致、広島市などに出るにしても、通勤しやすい道路網や活用しやすい公共交通機関の整備が必要ではないかと思います。

(委員)

子育てを始めて13年になりますが、13年前はママ会がすごく盛んで、色々な種類のママ会があって賑わっていた印象だったのですが、今の若いお母さんたちのお話を聞くと、ママ会なんて行ったことがない、見たことがないという状態で、今はすごく減っています。私が住んでいる地域でも、常会の世帯数が減る、なくなる、さらには小学校のPTAに入る意義って何だろうっていう人も出てくるなど、個人でいたい人が増えているのだなと感じているところです。個人でいたい人たちに、団体に入るよう薦めても、言われることが苦痛でもっと疎遠になってしまうと思うので、「つながる」という言葉を計画に盛り込まれる時に、団体の面倒くささだけが見えてしまうのではなく、個人個人が連絡を取り合える、相談し合えるような、気軽に「つながる」という面も、市民の方に見えるような表現が盛り込まれたらいいのかなと思っています。

また、市民のための賑わいづくりという話もあったと思うのですが、商業的・観光的な賑わいは商工業者や観光業者にお任せしていいと思うのですが、お祭りやイベントをすれば賑わうというのではなく、人口減少の中、団体などの小さな組織の活性化というところの賑わいのイメージもできたら、10年後にもっと良い三次市になっているのではないかなと思います。

交流について、「市内高校や県内大学との交流を進めている」とありましたが、グローバル社会になっているいろいろな人と出会えるチャンスがある中で、子どもたちが市外の私立中高や県外の大学とも交流ができ、取組を知ることができるような環境があったらいいと思います。特に私立学校は少子化の中でいかに子どもを獲得するかという知恵を振り絞っておられ、そういう考えも人口増加のヒントになるかもしれないので、もっと積極的に広く外とのつながりや交流もできたらいいなと思っています。

市の情報発信について、市民の方・市外の方へ向けたサイトなど種類があり、また、きちんと分けられていて見やすく、Facebookや公式LINEも、同じ情報がいつも入ってくるなど、すごいなと普段から思っています。こうした市外・県外・日本全国の方が見ることができるチャンスがある媒体を使っているという面で、外に向けての表現を、これからも頑張っていっていただけたら、人口増加につながるのかなと思います。

《公開用》

最後に、ICTの導入により、小中学校の子どもにタブレットが行き渡っていますが、感染症にかかって、長期休まなければならない時、休みの後半は元気になっているので、Zoomで授業を受けさせてもらうよう学校にお願いしたのですが、画像が悪く、声も割れていて、何の授業をやっているのかわからないような状況でした。子ども全員が使える、使いこなしているというところまでは、早い対応だったかと思いますが、ICTを導入するだけではなく、休まれる子どもたちのフォローという面まで対応していただきたいなと思いました。

(委員)

この会議の一番の目的が、第3次総合計画を策定することだと思うのですが、第2次総合計画を見させていただくと、あまりにも茫漠としています。スケジュール的にはおそらく8月・10月頃に示されると思うのですが、骨子を先に見せていただいた方が、話し合的にはもうちょっと実のあるものになったかなと思っています。今は、適当にブレーストリーミング的な時間だとは思いますが、どういうふうには計画を作って、何を目的にしていくのかというところがわからず、第2次総合計画の中項目や大項目をそのまま継承していくのかなど、やり方がよくわからないなと思いながら見ていました。

(会長)

ありがとうございました。おっしゃる通り、今日はアイデア出しに留まっているかと思います。

(委員)

私も同じような意見ですが、もう少し具体的に、私はこうしたい、私ならこうする、こんなことしたらどうだろうという意見を出さないと、10年後も同じような会議になっているかと思いません。私は30年前に三次に来て、三次は非常にいいところだと思います。今後もおそらく三次は良いまちであり続けると思っています。ただし、人口は減ります。分かっていることで、増やそうなんてことを言っても無駄なので、どう10年後に痛みを和らげ、最小限に留め、皆さんの生活を守れるかが大切だと思います。漠然と税金を払って、みんなが背負いこみ、無理やり維持しようと思えば、生命維持装置はできるかもしれません。でも、そんなお金が三次にありますか。縮むことはわかっています。それは、痛みも伴います。年代別に、それぞれ悩みは違う中で、今の資産・資源の中で足るを知り、10年後にどれだけ痛みが少なく、皆さんが満足度を上げて暮らしていけるか。居場所づくりが私たちの仕事だと思います。居場所が多いほど満足度が高いということ、どこかの先生の発表で聞いたのですが、どう居場所を作っていくかということが、私たちに課せられた使命だと思います。私は十日市の住民ですので、一番心配をしているのは、水害と芸備線の2つの課題です。

(委員)

医療の話をしたいと思います。今日は、1回目なので問題点をあげ、次回から夢を語れたらと思います。10年後、私の感覚ではやばいです。非常にやばいです。医療は、予防、早期発見、治療が大切になります。治療に関しては、AIや技術的なことである程度解決することができると思います。市立三次中央病院は建て替えますし、医師も今「ふるさと枠」でどンドン現場に出てきていますので、おそらく減ることはないと思います。ただ、看護師や医療を支えるスタッフが現時点でもいません。人材獲得のために、あちこち手を伸ばしていますが、なかなか集まらない状況です。病院から退院した後、特に高齢になると、在宅を支えるスタッフも足りなくなると思います。そういった人材を確保することが必要なのだろうと思います。病気はすべて治っても健康で生きることとは別話です。「食べる」「社会参加」「動く」を意味する「くうでるうごく」と

《公開用》

という言葉がありますが、これは高齢者に限った話ではありません。「くう」については、高齢者に限って言いますと、疾病範囲の中で食べる、でもそれは誰がどうやって作るのか、誰が提供してくれるのか、今はそういうものを作ってくれるところもないです。できたとしても、そこにどうやって行くのか。「でる」についてもいろいろと問題があると思います。先程「個」を大切にする価値観という話がありましたが、やはり、皆さんが言われるように、つながるといことは重要だと思います。つながると言っても、どこに場所があるのか、そこにどうやって行くのか、誰と集うのか、といったことも考えていく必要があります。運動にしても、若い人は運動場などがあれば勝手に遊びますが、高齢者はどこで身体を動かせるのか、そこに誰が連れて行くのか、誰が監視をするのか、そういったことを、具体的に詰めていかないと、10年後はやばいと思います。次からは夢のある話をしたいと思います。

(委員)

簡単にお話をさせていただきます。10年後を踏まえて、単市でどうにかするというだけではなく、例えば県北3市の連携や、広島広域都市圏の取組の中で施策を打っていくという視点が必要ではないかと思いました。

(委員)

10年後を想定して願いたいところは、健康長寿というワードにあります。先程、他の委員からもどのように生涯有意義に生きがいを持って生活できるかという点を挙げられましたが、本当に同感するところで、少子化や高齢化は、なかなか歯止めをかけられるものではないかもしれません。しかし、我々一人ひとりの住民の意志を高めて、健康長寿をめざすべきではなからうかと思っています。

(委員)

商工会議所の会員数は減少しております。事業承継もままならない企業もあります。ただ、私がいつも思うのは、三次市にいて三次を楽しむことが我々にできていない、それを皆さんに伝えることができていないのではないかと考えています。子どもたちに、三次を好きになってもらうには、どんなふうに自分たちが動けばいいのかということを考えていくことが、先につながるものだと思います。私も一度外へ出て帰ってきた人間です。私の息子も、2人の子どもを連れて帰ってきてくれましたが、三次が好きだから帰ってくるという子どもたちを増やしてしていくことは、我々の使命だと思っています。そのためには企業誘致も確かに必要ですし、働く場も必要です。そして何よりも三次が楽しいと思ってくれる子どもたちをどうやって増やすかが重要です。三次中学校区ではコミュニティスクールをスタートし、地域の皆さんで子どもたちを見守っている、地域で子どもたち育てていこうという形が始まりました。今後、全中学校区でスタートしていきます。子どもたちは少なくなっていますが、この子どもたちがいつかはパートナーを連れて帰ってきてくれる、子どもが産まれていくことを信じて、我々は動くべきだと考えています。

(会長)

ありがとうございます。予定の時間をかなり過ぎましたが、貴重なご意見、ご指摘を頂きましたので、次回以降、これを反映させていただければと思います。では最後に、今後のスケジュールにつきまして、事務局からお願いいたします。

(事務局)

皆様、ありがとうございました。今後のスケジュールについて、[資料13](#)の裏側をご覧ください

《公開用》

ればと思います。先程ご意見を頂きましたが、来年1月にかけて、4回の開催を予定させていただいております。次回は8月31日の13時30分から予定をさせていただいております。近くなりましたらご案内をさせていただきますので、お忙しいとは思いますが、よろしくお願いいたします。次回の会議では先程もお話をいただきました、次期総合計画の骨子案をご提示させていただき、こちらに基づいてのご審議をいただきたいと思っております。この骨子については、現在の総合計画でいいますと「まちづくりの取組」で、ひとづくり、くらしづくり、仕事づくり、環境づくり、しくみづくりの5つの柱をお示ししておりますが、こちらに対応したような内容に沿って骨子案としてお示しさせていただく予定です。来年の1月にかけて、この審議会でご審議いただくようになりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

(会長)

ありがとうございます。次回から骨子案が出てくるということですので、よろしくお願いいたします。他に何かございますか。ないようでしたら、以上で終わりたいと思います。長時間ありがとうございました。それでは、ここで事務局に進行をお返しします。

4 閉会

(事務局)

本日は長時間にわたりありがとうございました。最後に事務連絡をさせていただきます。

皆様方との連絡方法につきまして、メールアドレスをお持ちの方にはメールでやりとりをさせていただければと思いますので、メールアドレス記入用紙にご記入いただきまして、お帰りの際に事務局にお預けいただければと思います。口座振替の用紙もお配りしていたかと思いますが、まだご提出いただけていない方につきましても、ご提出いただければと思います。

本日の会議は以上で終了したいと思います。誠にありがとうございました。